

<中間データの目次の定義>

- ① 刷本が発行された、後に刷本は発行せずに変更出図された組立図面のみを、KROSS/KIPSS のみに掲載する中間データとして目次を作成する。

→変更組図で車載実績のある組立が掲載対象

→図書コードは7桁（例、1142611）

→KR と KA の適用号機は初版と同じで KROSS/KIPSS に掲載する。

例、114621（#0053～）：初版

1146211（#0053～）：中間データ※組立毎に変更号機が記載の有るものもある

114622（#1001～）：改訂2版

→HD の適用号機は初版と同じで KROSS/KIPSS に掲載する。

※ただし、変化点管理が必要な変更図面は変更号機を組立毎に記載する。

※HD の実施号機の確認は、設計2部が製造部より配布を受けている変更号機通知書の台帳で確認する。[¥¥Nas002¥設計第二部¥書類管理データベース¥変更号機 DB.xlsx](#)

※SW と ED については号機ごとにパーツリストは作成されているので対象外

→中間データのみで発注番号を発番することも問題なし。

※HD の場合は中間データのみ発注することがある

→イラスト校正、エラーログ校正、版下校正は通常通りやる。

※中間データしか発注しない場合、校正終了報告書は中間データの図書コードごとに行う。

→HD の中間データは、組立ごとに DTP（版組）をやる。

※MV と同じ形式。

※KR、KA の中間データは、DTP 作業は行わない。KROSS/KIPSS に掲載のみ

→HD の場合、設計第2部に版下校正で行ってほしい内容は…

- ・組立の変更予定の有無

- ・仕様一覧があっているか

※KR と KA の中間データは版下校正が無く、エラーログ校正で完了。

→変更組図が別機種コードの組図もあるのでこちらも中間データに入れる

例、52E の目次に 53E 品番の組図がある場合

これを目次に反映するか

→初版より変更のない組立（共用分）については目次に入れない。

→HD や SW、ED のように仕様や号機ごとの掲載が必要な場合は、仕様毎の目次（BOOK ID）も作成する。

→図書作成データ

- ・CSV（目次通りの一式）

- ・AI

- ・SVG

- ・組立毎の DTP データ（InDesign）※HD と MV のみ

- ・組立毎の PDF データ※HD と MV のみ

※MV のような組立毎の印刷物の納品がある。

- ② 中間データを改訂する場合（HD の場合）

→改訂前の目次より変更されている組立図面を集めて目次を作成する。

→図書コードは7桁の末尾を一つ上げて改訂版にする。（例、1142611 → 1142612）

→その他は、基本的には①と同じスペックで作成。

③ 刷本の対応について

→工場の在庫が無くなり増刷の依頼が来たときは、改訂版を発行する。図書コードは6桁の末尾を一つ上げる。(例、114261 → 114262)

→特別な契約で刷本を発行する場合は、専用図書コードで発行する。目次も専用の目次も作成する。
(官公庁向け等の特別な契約時)

→HDのように中間データをメンテナンスしている場合、刷本を新たに発行するときのエラーログは新規の組立の有無や中間データ掲載指示から期間がどれくらいかで都度判断する。仮に中間データで行ったDTPデータを使って組版することもあり。